

3月11日の大震災で多くの方々が被災されました。被災された方々に心よりお見舞い申し上げるとともに、亡くなられた多くの方々のご冥福をお祈り申し上げます。本庄高等学院は3月9日に2010年度の卒業式を済ませることができましたが、震災以降、余震や原子力発電所の状況が予断を許さぬ中、早稲田大学では電力や公共交通機関に対する負荷を軽減する社会的責任等を考慮して、2010年度の卒業式、2011年度の入学式を中止し、授業期間も変更いたしました。

早稲田大学は1882年、明治15年大隈重信により「学問の独立を全うし、学問の活用を効し、模範国民の造就するをもって建学の本旨と為す」という基本理念のもと、国立学校とは違う私立学校として、在野の多様な自由の精神あふれる人材の育成をめざして創立されました。以来この建学の理念を変わらぬ指針として、ある面では国立学校と競い合いある面では補い合い、今年130年を迎えます。

特に学問の独立が第一に上げられ、これを多くの先人達が守り続けて来たからこそ今日の早稲田大学があるのです。「実るほどに頭を垂れる稲穂かな」というまさに早稲田にふさわしい言葉がありますが、多くの卒業生が学問を活用し、決しておごり高ぶることなく、広く世界で活躍しております。

本庄高等学院は1982年に早稲田大学の建学100周年を機に、都の西北約80km 埼玉県本庄の大久保山に創立され、ことしは30年目を迎えました。早稲田大学には2つの附属校と5つの系属校があります。附属校である本校の生徒は日本全国および世界から集まり、卒業すると原則として全員早稲田大学に進学します。大学の創立125年、学院の創立25年を機に定員を80名増やす形で、男女共学が実現しました。日本全国、広く海外から、この春入学した男子230、女子108名を加え、総勢男子684名、女子318名、合計初めて1,000名を超え1,002名の生徒が緑豊かな広大なキャンパスで学んでいます。

校舎は定員増で手狭になりましたが、多くの方々のお力により、新校舎、生徒寮の建設も始まっております。来年春には完成する予定です。

本庄高等学院では進学希望先が文系、理系の学部にかかわらずバランスの取れたカリキュラムが組まれており、学院創設以来、高等学校には珍しい卒業論文を全員に課しています。また在学中に大学の講義科目を履修すると、大学でその単位を認定する先取り科目や、大学、大学院教員による授業など、大学、大学院との強い連携のもとに教育が行われております。

また本庄高等学院は文部科学省のスーパーサイエンスハイスクール(SSH)に2002年の初年度から指定され、大学の研究室や隣接する本庄リサーチパークにある大学院の研究室の協力のもと、特に理系ばかりでなく文系志望者をも対象としたSSHクラスの設定など、他に類を見ない取り組みをしております。

本庄高等学院では3年次に開校以来北京への修学旅行を実施し、北京大学附属高級中学(日本の高等学校に相当)と学問、文化、スポーツの交流をしてきました。2007年からは韓国、台湾を加えた3コースの修学旅行を実施しております。

今回の地震では自然の力、科学のもろさ、理系の人間として専門家の無力を知らされ、反省もしております。我々は、危うい、バランスを超えた領域にまで、立ち入ってはいけないところまで立ち入ってしまったのではないのでしょうか。自然を甘く見ていたのではないのでしょうか。科学への妄信がなかったのでしょうか。まさに違った形の、いつか来た道に踏み込んでいた感じがします。あまりにも大きな代償を払いましたが、自然はそれを気付かせてくれました。

こんな時こそ早稲田大学の存在意義はますます重要になるとの想いを強くしております。鎌田薫早稲田大学総長は全ての新生入生にホームページを通じ「地球社会の未来を築く歩みの先頭に！」と力強いメッセージを発しております。ぜひ一緒に歩みの先頭に立ちましょう。

皆さまは貴重な青春のひとつときを、無意味とは申しませんが無味乾燥な受験勉強を強いられることなく、人生でおそらく一番輝いているこの3年間を有意義に過ごし、ぜひ借り物ではない「ほんもの」を、「これだけは任せてほしい」何かを身につけて下さい。そして、大学でさらに学問を究め、社会に出て、多くの課題の克服、人々の平和・文化に貢献してください。

わずか50年前には20億であった地球の人口が70億になろうとしています。今地球は震災とそれに伴う災害以外にも温暖化、水・食料問題、エネルギーの確保など多くの克服しなければならぬ課題に直面しています。また100年に一度とも言われる経済危機にも見舞われています。ともすれば一極集中の方向に向かいつつある世の中で、本庄高等学院生には大久保山で身につけ、そして早稲田大学で培うであろう多様な学問を活用して、岐路に立ったときは楽な道を選ばず、あえて困難だがやりがいのある道を選ぶような、建学の理念を実践する生き方をしてくれるものと期待しております。